

目的 婦人の日常着として、スカートの需要はますます増大し、その既製品の利用率はおよそ95%である。そこで適合性の高いスカート・パターン作製の基礎資料を得ることを目的として、成人女子用 Dress Dummyの胴から腰部にかけての部位の形態を比較検討し、さらに Dummy から作製したスカート・パターンの着用適合性についてみるために、標準的なタイプの女子学生10名の腰部形態についても検討した。

方法 Dress Dummyは、昨年胴部原型について検討したものと同一4体を用いた。形態の把握は、Dummy ならびに人体ともモアレ法により行った。すなわち、右臀突部の中心点(腰囲)腹部突部の中心点をそれぞれ通る水平断面と、ベルトが落ちつく位置(胴囲)などを近似的曲線で求め、腰囲断面の前後の正中点を結ぶ線をY軸とし、その中点を通りY軸と左右に直交する軸をX、垂直に直交する軸をZ軸とする直交座標系を設定し、各断面の極座標値を求めた。次に各 Dummyより、立体裁断によってパターンを製作した。

結果 Dummyの腰囲断面の形態は、偏平なものと同丸みをもったものがあり、偏平なものはいずれも生体で観察できる上前腸骨棘あたりの形態を比較的忠実にあらわしているようである。次に胴囲では、胴囲線が水平な1体以外は、やや前あかりに傾斜しているがその差は3~10mmである。断面の形態は偏平なものと比較的に近い形のものがあり、偏平なものは、Z軸が胴囲においてもほぼ中心に位置するが、円に近い形のは、やや後方に位置するため、前面では腹部が突出し、後面では殿部が突出している。人体においても偏平なタイプと、比較的丸いタイプがあり、後者のタイプが多か、た。